

十字架の国

シリーズ～神の国～

2013/9/29

十字架によって完成した神の国

- キリストの存在によって神の国は**到来した**
 - 「時は満ち、神の国は近づいた。」 マルコ1:15
- キリストの教えは神の国を**解き明かした**
 - 「神の国を何にたとえようか。」 ルカ13:20
- キリストの行いによって神の国は**実現した**
 - 「わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。」 マタイ12:28
- キリストの十字架によって神の国は**完成した**
 - 「イエスは、このぶどう酒を受けると、『成し遂げられた』と言い、頭を垂れて息を引き取られた。」ヨハネ19:30

<義務> → <恵み>

- 「人の国」(律法の国)は「義務の国」である
 - 「見よ、わたしは今日、あなたたちの前に祝福と呪いを置く。…主の戒めに聞き従うならば祝福を、もし、…主の戒めに聞き従わず、…呪いを受ける。」申命記11:26-28
 - 幸いを得るためには人間の努力が不可欠
- 「神の国」は「恵みの国」である
 - 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、**神の恵みにより無償で義とされるのです。**」ローマ3:23-24
 - 私たちの果たすべきすべての義務を、キリストが十字架上で果たされたので、私たちはその結果だけを頂く

<行い>→<信仰>

- 「人の国」は「行いの国」である
 - 「何をしたか」がその人の価値を決める
 - 「律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。」ローマ3:20
- 「神の国」は「信仰の国」である
 - 「何を信じた」がその人の価値を決める
 - 「わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。」フィリピ3:9
 - 私たちには何もできないことを認めるのが信仰!

<裁き>→<赦し>

- 「人の国」は「裁きの国」である

- 「すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。」ローマ2:1
- お互いに自分を正しいとして裁き合っている

- 「神の国」は「平和の国」である

- 「その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。」コロサイ1:20
- キリストはすべての人に代わって裁かれ、裁き合いを終わらせた

義務

恵み

十字架の国

行い

信仰

裁き

赦し

今日のみことば

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇(ほこり)とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」

<ガラテヤ6章14節／口語訳>